

明海大学不動産学部

不動産の不思議

第155回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

私が通う大学がある浦安市には3つの鉄道駅がある。東京地下鉄東西線の浦安駅、JR京葉線の新浦安駅と舞浜駅だ。3駅は雰囲気こそ異なるものの、たくさん

の人が行き来し、とても活気がある。一方、どの駅も少し離れると人通りが

少なくなり、女性や子供が不安を感じても不思議ではない場所がある。

浦安市の市域は境川によって東西に分断されている(山崎映里「不動産の不思議第78回」15年4月7日号)が、私が通学で使う境川沿いの道路



川本 和輝
不動産学部 2年

スーパー防犯灯の効果

安心、安全の不十分さをカバー

は、3駅からちょうど同じくらい離れた位置にあり、夜の帰宅時には人通りのなさに驚く。首都高速道路湾岸線の高架下では、特別の不気味さを感じる(写真)。

原因は2つ考えられる。1つは、浦安市は交通の利便性が高く、東京や千葉の都市部にすぐ出られることだ。浦安市に転居する人は職場への接近性を重視し、通勤に便利な駅の近くを選択する傾向が強い。首都高

差の上を通ることも、これに拍車をかけている。2つ目は、浦安市の埋立地部分は計画的な街づくりが行われ、住宅地の近くに病院やスーパーなどが整備



市の中心部にありながら交通量の少ない場所もある

まで出かける必要性が少ないことだ。境川沿いが人の流れの境界線として辺りな場所と化し、朝夕の中学生の通学時以外はあまり人通りを

12カ所設置されており、私が不安に感じた高架下にも設置されていた。スーパー防犯灯が犯罪の抑止力になり、女性や子供に安心を与える。便利で効率的な街づくりの

感じない。人通りの少なさが治安の悪さにつながらないよう、浦安市は犯罪の危険性が高い場所にスーパー防犯灯を設置している。スーパー防犯灯は非常時に浦安警察署と直接通話できる

結果として、安心や安全が十分とはいえない場所が発生することもある。その不十分さをカバーする街が住みやすい街だ。

【教員の目】

速道路の北側に住む人は浦安駅に、南側の人は新浦安駅や舞浜駅に出やすい。一方で、首都高速道路が市域を南北に分断する結果となる(大田茉莉奈「不動産の不思議第70回」15年2月10日号)。

写真の場所は地理的には市の中心部ながら、東西、南北ともに交通量が少ない。高速道路に出入りする車や南北方向の幹線を走る車が立体交

深夜営業のコンビニやレストランが立地して、眠らない市民活動を支える都市が評価、選択される時代となった。夜の活動に即応するエリアも増える一方、即応しないエリアや施設も並存する。眠らない都市への向き合い方に街の未来がかかる。